

旧石器時代と縄文時代

旧石器

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

今日の問い

旧石器時代と縄文時代、人々はどのようにくらしていたのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 氷河時代と岩宿遺跡

日本列島のはじまり

ひょうがじだい
氷河時代

地球の気候が寒く、氷河が広がっていた時代。

いわじゅくいせき
岩宿遺跡

群馬県の遺跡。打製石器が見つかり、旧石器時代があったとわかった。

ナウマンゾウ

氷河時代の日本列島にいた大型のゾウ。

約1万年前までの地球は、**氷河時代**と呼ばれる寒い時期が長く続き、海面が今より低かった。日本列島は大陸と陸続きになることがあり、**ナウマンゾウ**やマンモスなどの大型動物を追って、人々も大陸から渡ってきたと考えられている。長野県の野尻湖では、ナウマンゾウの化石が見つっている。

かつては、日本列島に旧石器時代の人々は住んでいなかったと考えられていた。しかし第二次世界大戦のあと、群馬県の**岩宿遺跡**で、相沢忠洋が**関東ローム層**^{あいざわただひろ}(火山灰が積もってできた赤土の層)から打製石器を見つけ、日本にも**旧石器時代**があったことが明らかになった。人々は打製石器をつけたやりで大型動物をとらえ、移動しながらくらしていた。

2 縄文時代の暮らし

縄文時代

じょうもんとき
縄文土器

縄目のような文様がついたものが多い、厚手で黒褐色の土器。

たてあなじゅうきょ
たて穴住居

地面を掘り下げてつくった、縄文・弥生時代の住居。

どぐう
土偶

土でつくられた人形。まじないに使われたと考えられる。

約1万年前に氷河時代が終わって気候が暖くなると、海面が上がって日本列島は大陸から切り離され、ほぼ今の姿になった。人々は、縄目のような文様がついたものが多い**縄文土器**をつくり、食べ物を煮たりたくわえたりした。この土器が使われた時代を**縄文時代**という。

人々は、地面を掘り下げた**たて穴住居**に住み、狩りや漁、木の実の採集をしてくらした。食べたあとの貝がらなどを捨てた**貝塚**や、まじないに使われたと考えられる**土偶**も見つかっている。青森県の**三内丸山遺跡**は大規模なむらのあとで、多くの人々が長い間定住していたことがわかっている。

手がかり	わかること
縄文土器	食べ物を煮たり、たくわえたりしていた
貝塚	貝や魚、けものなどを食べていた
土偶	豊かなめぐみなどを祈るまじないをしていたと考えられる

問いへの答え

氷河時代の日本列島は大陸と陸続きのこともあり、旧石器時代の人々は打製石器を使って大型動物をとらえ、移動しながらくらしていた。約1万年前に気候が暖かくなって日本列島がほぼ今の形になると、縄文時代の人々は縄文土器を使い、たて穴住居に住んで、狩りや漁、木の実の採集をしながら定住するようになった。

次は **ノート** で、下線に語句を書きながら確かめよう →

